

「農」と「自然」と「建築美」を愉しむ

「農」と「自然」と「建築美」。生きた名建築に触れ、訪れるたびに新たな文化価値を発見できるコースです。ひとたび新しい村に足を踏み入れると、どこか懐かしい風景が広がります。大宮台地の東端で台地と低地の多様な生態系が観察でき、四季折々に変化する豊かな自然と、そのなかに生きる建築美を訪ねて…あなたの「愉しい」を見つけてみませんか？

2 女躰宮 (にょたいぐう)

京都に学問を教えに行っていた蓮谷の鈴木家の先祖は貴族の三条家の姫君と恋仲となりました。しかし身分の違いから結ばれることはないと言われ蓮谷に戻って来てしまいました。姫君は後を追って京都から当地まで来ましたが、途中何者かに襲われたため、鈴木家近くの池に身を投げてしまいました。付近の人たちは姫君を哀れに思い、池のほとりに女躰宮を祀って姫の霊を弔いました。



3 辰新田浅間神社 (たつしんでん せんげんじんじや)

ももとは、稲荷社の境内社でした。祭神は、木花咲耶姫命(このはなさくやひめのみこと)。この地域周辺では、毎年7月1日の初山の日に、当社と山崎の赤松浅間神社、古利根川の対岸(杉戸町)にある河原の浅間神社の三ヶ所を参拝する「三山(みやま)」と呼ばれる習わしがあります。

4 蓮谷稲荷神社 (はすやいなりじんじや)

旧蓮谷村の鎮守。祭神は、倉稲魂命(うがのみたまのみこと)を祀ります。創建には諸説ありますが、江戸時代の初期に当地の名主加藤氏により勧請されました。御神体を納めた箱に書かれた文字から、明和3年(1766年)に京都伏見稲荷神社から「正一位稲荷大明神」の神霊(しんじ)を与えられたことがわかります。本殿は江戸時代のもので、中世以来の神社建築様式である「見世棚造」となっています。

5 笠原小学校 (かさはらしょうがっこう)



象設計集団の設計により昭和56年に完成した笠原小学校は、宮代町に古くからある切妻型瓦葺きの二階建て農村住宅を具体的なモチーフとし、「学校はまち」「教室はすまい」「学校は思い出」の三つのコンセプトをもとに造られた赤い外壁と瓦屋根のユニークな学校です。

総距離:約6km 所要時間:約2時間00分

- スタート ① 東武動物公園駅西口広場 東武鉄道杉戸工場跡
- ② 女躰宮 貴族三条氏の姫君の伝承
- ③ 辰新田浅間神社 木花咲耶姫命を祀る
- ④ 蓮谷稲荷神社 旧蓮谷村の鎮守
- ⑤ 笠原小学校 赤い校舎はまるで竜宮城
- ⑥ 新しい村 宮代原風景
- ⑦ 山崎遺跡 縄文・古墳時代の住居跡
- ⑧ 農のモニュメント 「農に光あれ」
- ⑨ 山崎山 さいたま緑のトラスト保全第5号地
- ⑩ ホツケ田 井沢弥惣兵衛為永の新田開発
- ⑪ 図書館 県内トップクラスの蔵書・貸出数
- ⑫ 四季楽 市民参加によりデザインされたトイレ
- ⑬ 町役場庁舎 「農家の母屋」をイメージした木造庁舎
- ⑭ 進修館 宮代町のランドマーク
- ゴール ⑮ 東武動物公園駅西口広場 東武鉄道杉戸工場跡

【注意事項】 散策をするときは、交通量の多い道路や河川沿いなど、交通安全には十分ご注意ください。また、ゴミはお持ち帰りいただくようお願いいたします。自然路や史跡など、コース周辺の見どころには私有地が多く含まれますので、民家への駐車・立ち入りはご遠慮いただき、所有者とのトラブルにならないようご注意ください。

memo

【参考・引用文献】 本資料をまとめるにあたり宮代町発行の下記の資料を参考にしています。
○宮代町史 通史編/社寺総合調査 ○宮代の道/平成15年度 宮代町郷土資料館企画展
○みやしろ歩け歩け!/平成21年度 宮代町郷土資料館企画展 ○その他宮代町関連資料

「歴史」と「自然」を合わせた合成語です。

宮代町役場ホームページ
<http://www.town.miyashiro.lg.jp/>

新しい村ホームページ
<https://www.atarasiimura.com/>

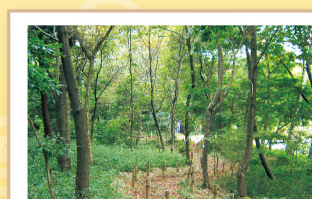
発行: 宮代町産業観光課・みやしろ市民ガイドクラブ
協力: 宮代町郷土資料館
〒345-8504 南埼玉郡宮代町笠原1-4-1
お問い合わせ: tel.0480-34-1111 201803/5,000

ぶらり宮代



ここがみどころ!

- 自然の中に生きる名建築 笠原小学校
- 宮代町の原風景を残した空間 新しい村
- 江戸からある自然を子どもたちへ
～さいたま緑のトラスト保全第5号地・山崎山～
- 人と人をつなぐターミナルステーション 進修館



山崎山の雑木林



新しい村



進修館・小ホール～議場の様子



魅力いっぱい!

植物油インキを使用しています。VEGETABLE OIL INK

9 山崎山 (やまざきやま)

さいたま緑のトラスト保全第5号地の「山崎山の雑木林」。その豊かな自然を後世に残すため、市民団体や県、町などが連携して保全活動を行っています。コナラやクヌギなどからなる雑木林は広さが約1.4haあり、野鳥や昆虫、植物が観察できる自然の宝庫となっています。ツリークライミングや自然観察会などのイベントも開催されています。



10 ホッツケ田 (掘上田)



新しい村のある山崎地区は、山崎山と呼ばれる雑木林の台地と笠原沼とが接している地域です。江戸時代に人々は沼を掘り上げ、細い深い堀と掘り上げた土でできた田んぼを作りました。これが「掘上田」と呼ばれる新田となりました。新しい村の整備とともに「掘上田」が復元され、体験のための田んぼとしてよみがえっています。

11 図書館

様々な情報収集の場としての図書館は、本を借りられるだけでなく、研修室、ホール(130人)、展示ホールなども備わっており、毎週幼児・児童向けの催しが行われるなど、様々な行事が行われています。こうした行事や図書の配架などには、多くのボランティアが活躍しています。

12 四季楽 (しきらく)

進修館に隣接した公衆トイレ「四季楽」は、福祉や環境に配慮するとともに、建物のデザインやサインを公募するなど、市民参加により建設されました。その先進性と手法が評価され、国際トイレシンポジウム96で「グッド・トイレ10」に選出され、今では進修館とともに宮代町の名所となっています。

13 町役場庁舎

宮代町の庁舎は、町政施行50周年を迎えた平成17年に完成した、全国でもあまり類を見ない木造建築の庁舎として、木の持ち味を活かした、ぬくもりある空間となっています。宮代町の農家の母屋をイメージして「大地と生命をやさしく包み込む新しい空間づくり～「農」のあるまちづくり～」に相応しい庁舎を目指し、まちの原風景に溶け込んだ「環境に優しい庁舎」「誰もが使いやすいみんなの庁舎」を基本コンセプトとして建設されました。南側は一面にガラス窓が配置され、明るく開放的な雰囲気を持っています。

14 進修館 (しんしゅうかん)

進修館は、町制施行25周年を迎えた昭和55年にオープンしました。町民が集い、創造する場として親しまれ、様々なコミュニティ活動の拠点となっています。「大ホール」など大小8つのスペースがあり、様々な活動に利用されています。象設計集団の設計によるそのユニークな外観から、町のランドマークとして広く親しまれています。進修館の名称は、百間小学校の前身である「進修学校」の名前にちなんで名付けられました。



6 新しい村 (あたらしいむら)

屋敷林や土水路など宮代町の原風景を残した空間。「農」のあるまちづくりの推進拠点として、平成13年度にオープンしました。宮代産の新鮮野菜や町内の特産品を販売する直売所のほか、江戸時代の水田開発を今に伝えるホッツケ田(掘上田)、市民農園、ハーブ園などがあります。さいたま緑のトラスト保全第5号地に指定されている山崎山の雑木林のすぐ隣に芝生広場もあり、自然を満喫できます。



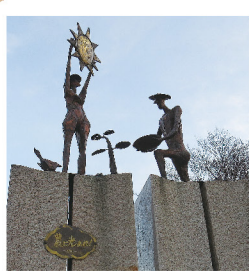
7 山崎遺跡 (やまざきせき)



山崎遺跡は、先土器時代から縄文時代早期～後期、古墳時代の遺跡です。これまでの発掘調査では、先土器時代の石器をはじめ、縄文時代では早期(約7000年前)の住居跡のほか、貯蔵穴や炉穴などが発掘されました。縄文時代の住居跡の一つは火事があった住居で、住居の柱などの建築部材が炭化したまま残っていました。道具としては、ヤジリや石斧、石皿、砥石、急須型の土器などが出土しています。この住居跡の出入り口は西側にあったようで、特徴的な柱穴が検出されています。なお山崎遺跡は、埼玉県選定重要遺跡に選定されています。

8 農のモニュメント

「農に光あれ」。「農」のあるまちづくりの象徴として、2001年、銅板作家・赤川政由さんの手によって作られました。「農」の資源を市民全体で維持、発展させるとともに、宮代町の地域資源としてとらえ、さまざまなまちづくりに生かしていこうという「農」のあるまちづくりの考えに基づくものです。



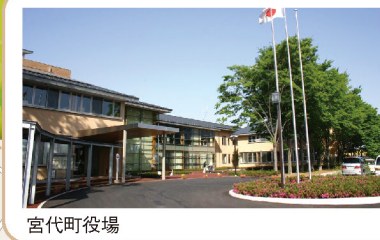
農のモニュメント



地図はこの辺りです

れきし
自
vol.6

“「農」と「自然」と「建築美」を愉しむ”コース



宮代町役場



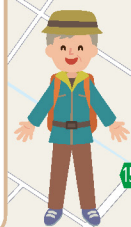
四季楽



図書館



笠原小学校・ホッツケ田



154



0 500m